

鮎と暮らす

美山漁業協同組合

南丹市美山町

組合長 小中昭さん



美山川の清流を守り、釣り文化を次世代へ繋げていく



京都・南丹市美山町。かやぶき屋根の家々が並ぶ「かやぶきの里」の横には、透明度が高く、今では珍しい蛍が飛び交う美山川が流れています。

「川には魚がいるものだ、と思われがちですが、実際には放流や河川環境の整備改善が必要不可欠です」と小中さんは語る。

美山漁業協同組合（以下、「美山漁協」）では、毎年全国各地の種苗生産地を訪れて現地調査を行い、その年に最も適切かつ良質なアユ種苗を選定して購入し美山川に放流することで、釣り人が満足できる環境づくりに努めている。

放流後は、アユが群れることでカワウなどの鳥類による被害が懸念されるため、テグス張りや花火による追い払いを実施。解禁日までにアユがしっかりと成長できるよう、細やかな管理が続けられている。

また、美山漁協の活動はアユだけにとどまらない。ゴリやハエの産卵床づくりやニゴイの駆除など、河川の生態系全体を整える取組も行っている。

「釣り人にとって、大自然の中で竿を持つ時間は特別なもの。美山川は、その感動を味わえる場所です」と小中さんは笑顔で話す。

美山川は、全国の鮎の味を競う「清流めぐり利き鮎会」で準グランプリを連続受賞する鮎を生産するだけでなく、全国規模の鮎釣り大会「ダイワ鮎マスターズ」の関西予選会場にも何度も選ばれる実績があり、これらは地域の誇りでもある。

このような評価の背景には、漁協による地道な環境整備と、地域への深い愛情がある。



南丹市美山町



おとりアユの選別作業

一方で、こうした水産資源の維持管理と漁村地域の振興を担う漁協は、全国的にも経営が厳しくなっている傾向にある。

美山漁協は、経営改善のためにアマゴやホンモロコの養殖を行い、地域内外で販売するとともに、遊漁者の新規参入を図るため令和7年度から鮎ルアー専用区を設けるなど、常に新しいことにチャレンジをされている、府内でも勢いのある漁協の1つである。

「美山の自然を守りながら、釣りの楽しさを次の世代へ伝えていきたい」。小中さんの言葉には、地域と川への深い思いが込められている。美山の清流に竿を垂らすその瞬間、彼の情熱と努力が、静かに流れている。

若手組合員 勝山拓さん、大野遙平さん、福原良太さん



美山川と鮎、ふるさとの自然と文化を、次世代に受け継ぐことに情熱を注ぐ

豊かな自然に囲まれたこの地で、3人若者が美山漁協の組合員となった背景には、「鮎を通じて、地元・美山を守りたい」という強い思いがある。

彼らは幼い頃から美山町で育ち、小学校から高校まで同じ野球部で汗を流した仲間。進学や就職で地元を離れた現在も、年に数回は美山に戻り、共通の趣味である友釣りを楽しんでいる。

ある日、小中組合長から「次世代の漁協の担い手がいない」「遊漁者が減っている」といった漁協の課題を耳にし、地元を愛する彼らの心を動かした。かつて当たり前だった風景が少しづつ失われている現実を知り、漁業を通じて美山を守りたいという思いが芽生えたのである。

友釣りの魅力は、おとり鮎を扱う難しさや、鮎が釣れた瞬間の独特な引きにある。「釣った鮎は食べても絶品で、時にはお小遣いにもなる。こうした魅力を、もっと多くの若い世代に知ってほしい」と3人は語る。近年では、全国的に鮎ルアー釣りができる漁場が整備され、若者が気軽に始められる環境が少しづつ広がっており、府内でも多くの河川で体験できるようになりつつある。

日常的に顔を出すことは難しいものの、夏の繁忙期には美山に戻り、種苗放流やイベントの手伝いなど、できる限りのサポートが続けられている。

美山川、鮎、そして人々の営み。変わらずそこにある風景を未来へつなぐために、彼らは漁協の一員として歩み始めた。

京都府南丹市美山町安掛寺ノ下 31-1
TEL 0771-75-0210 / FAX 0771-75-1654
営業時間 8:30~17:00
定休日 6~8月木曜日、それ以外は 土日祝

